１月の園だより

平成３０年１月４日
小屋浦みみょう保育園

～地域で子育て応援～

新年あけまして
おめでとうございます。

新しい年の幕開けとともに、子どもたちや保護者の皆様の笑顔があふれる良い年になりますよう、心よりお祈り申しあげます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年の生活発表会では、子どもたちは緊張したり恥ずかしかったりしながらも、一人ひとりがそれぞれの持ち味やいろいろな表情を見せるとともに、遊んできたことをしっかり表現していました。幕が開くとお家の人を見つけて手を振ったり、安心した表情になる子も多くいたように思います。

観客席では、乳児のありのままの姿に皆さんが目を細めたり、面白い場面では思わず笑ったり、子どもたちの一生懸命な姿を静かに真剣に見てくださったり、表現する子どもたちと見てくださる人たちが一体になっているように感じました。子どもたちを温かく見守り、ともに楽しんでくださる人がいることで、子どもたちは安心して表現を楽しむことができたのでしょう。

保護者の方からは、「家で自分の役割、セリフ、楽器の名前を教えてくれ、園で楽しく練習している姿が目に浮かぶようでした」「一年一年この日は子どもの成長を感じる日です」「恥ずかしかったという子どもの感想を聞き、”恥ずかしい”という思いも成長と感じました」「一生懸命に頭も体も動かすことが、将来の子どもたちの生きる力になるのだと思いました。子どもの“やりたい”を一番に優先されたこと、すごく応援したくなりました」０歳児の保護者からは「1 歳児の発表を見て参加したそうにしており、普段楽しく過ごしているのだと嬉しく思いました」など感想をいただきました。保護者や地域の方たちと子どもたちの成長を確かめ合った発表会でもあったように思います。

さて、年長児は昨年に引き続き、坂町母子推進員さんとの伝承遊び交流会に参加しました。中でも子どもたちが夢中になったのはあやとりで、次々に形が変化していくあやとりに興味津々でした。一人ずつ手作りのあやとり紐をいただき、さっそく手や指にかける子どもたち。すぐにうまくできなかったり、指から紐が離れてしまうのですが、誰ひとりあきらめる子はおらず、大人や友だちの指先を一生懸命見て、何度も繰り返し挑戦する姿に子どもたちが自ら育つ力を持っていることを感じました。簡単な形でも自分でできた時の「やったあ！」の表情は輝いていましたし、「楽しい」「できた」という喜びが「またやりたい」につながっていくと思うと、子どもたちがやりたくなる環境や保育の工夫に励んでいきたいと思います。

保護者や地域の方と子どもたちの可能性やパワーを引き出し、子どもたちと関わる経験の豊かさやおもしろさを共有していき、子どもを中心とした子育ての輪が広がっていくことを願います。

大人の笑顔が、子どもたちの心の栄養に！

園長　舛野　裕子

七草粥（ななくさがゆ）（１月７日）

お正月に七草粥を食べると、素朴な味にほっとしませんか。

本来、七草粥は無病息災を願う行事食ですが、お正月のごちそうに疲れた胃腸をいたわり、不足しがちな青菜（あおな）をとるという生活の知恵もふくまれています。

昔は春の七草をつみに行きましたが、今は七草セットを売っているのでとても簡単に作れます。園内やちょっとお散歩に出かけても見つけることができます。

保育園では、９日のおやつで七草粥をいただきます。

（春の七草）

セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、
ホトケノザ、スズナ（カブ）、スズシロ（ダイコン）

鏡開き（１月 11 日）

お正月のあいだお供えしていた鏡餅を食べる行事で、一年を幸せにすごす力をさずけてもらうという意味があります。「年神様は刃物をきらう」という考えから、包丁を使わず手や木槌で割り、縁起よく「開く」というようになりました。

鏡餅は供えて・開き・食べてこそ意味があります。
本来はお雑煮やおしるこにしますが、油で揚げて「かき餅」にしてもいいですよ。11 日におやつでぜんざいをいただきます。

生活習慣を整えましょう！

『早寝・早起き』

早寝・早起きの習慣は、まず早起きから始めましょう。昨夜は遅く寝たから遅く起きるのではなく、朝の光を入れながらきまった時間には起きるようにしましょう。毎日続けることで、早寝の習慣もついてきます。睡眠不足は機嫌が悪くなったり、日中の活動にしっかり取り組めなかったりします。

『食事の習慣』

家族で会話をしながら楽しい雰囲気で食事をしましょう。間食は控え目にし「お腹がすく」リズムをつくることも大切です。

『自分でできることは自分で』

衣服の着脱、自分の持ち物は自分で持つなど、子どもたちは身の周りのことを自分でする力を持ち得ています。送り迎えの際、お家の方がカバンを持っておられる光景など見かけますが、「自分で持とうね」と、声をかけ良い習慣をつけていきましょう。